

TKS report vol.22

TECHNOLOGY AND KNOWLEDGE ENRICH SOCIETY

第112期中間報告書

2017年3月1日～2017年8月31日

株式会社 **東京衡機**

TOKYO KOKI CO. LTD.

【東証2部上場（証券コード7719）】

■ トップメッセージ/企業理念



代表取締役会長兼社長
石川 隆一

平素は格別のご支援、ご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループの第112期上半期（2017年3月1日～2017年8月31日）のわが国経済は、雇用・所得環境の改善が続く中で、個人消費が緩やかに持ち直すとともに、企業収益も改善し、生産、輸出および設備投資は堅調に回復し、実質GDP成長率の伸びは前年度を上回る見込みで推移いたしました。一方、世界経済は、緩やかな景気回復が見られるものの、米国のトランプ政権の今後の政策の動向やその影響、中国における不動産バブルや企業の過剰債務問題、北朝鮮の核開発を巡る緊迫した政治情勢、英国のEU離脱問題などにより不確実性は高まっており、先行き不透明な状況となっております。

このような状況の下、当社グループは、2017年3月1日付で、エンジニアリング事業を簡易新設分割により新設会社の(株)東京機エンジニアリングに承継させ、実質的な持株会社体制へ移行いたしました。これにより、当社は、グループの各事業に係る責任と権限を明確にするとともに、グループ経営の意思決定の迅速化を図ってまいります。

試験機事業では、試験機・計測機器の開発・設計・生産からメンテナンス・校正・受託試験サービスまで、ワンストップソリューションで、自動車、鉄鋼、産業機械等のメーカーや各種研究機関、学校、官公庁など幅広いユーザーに製品・サービスを提供しました。

エンジニアリング事業では、ハイパーロードナットをはじめとするゆるみ止め製品の電力業界、道路業界、建設業界等のインフラマーケットでの市場シェア拡大を図るとともに、一般消費者向けの生活関連商品の販売拡大に努めました。

海外事業では、中国子会社において、中国国内のほか日本や欧米向けにオフィス家具部品や家電部品、自動車部品等のプラスチック成型品の製造販売の維持拡大に注力いたしました。

当上半期の業績につきましては、試験機事業において、受注状況は比較的堅調に推移したものの期中の大口径上案件が少なかったこと、海外事業において、欧米向けのオフィス家具の需要変動により売上が伸び悩んだことに加え、中国子会社において元役員による不正問題が発覚したため、調査委員会を立ち上げ原因の究明と再発防止対策に取り組んでいるものの、管理体制の立直しに時間と費用を要したことなどにより、売上高、利益ともに期初の計画を大きく下回りました。

今後につきましては、中長期的視点に立って、グループとしてさらなる成長を目指すべく、グループ各社の連携と内部体制の充実強化を図り、海外事業の再構築による早期の黒字化など様々な課題にチャレンジいたします。

皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

contents

トップメッセージ/企業理念	1
決算ハイライト	2
事業内容	3
事業の概況	4
第2四半期(累計)連結財務諸表(概要)	5
トピックス	7
特集「T-スプリング」のご紹介	9
株式情報/会社概要/役員等	10

TKS
TOKYO KOKI

TECHNOLOGY AND KNOWLEDGE ENRICH SOCIETY

「技術と知識で豊かな社会の実現に貢献する」

技術への挑戦と
顧客からの信頼

常にお客様の立場に立ち、
“価値ある商品”を提供します。

人間性の尊重

一人ひとりの“能力・意欲・創意を
尊重する”とともに、やさしさと
温かみのある人間集団を目指します。

地域社会への貢献

日々の誠実な活動を通じ、
地域からも“信頼される
企業市民”であり続けます。

決算ハイライト

第112期第2四半期累計期間 (2017年3月1日～2017年8月31日)

	連結業績	個別業績 (当社単体)
売上高	2,084百万円 (前年同期比△20.8%)	166百万円 (前年同期比△57.9%)
営業利益	△254百万円 (前年同期は148百万円)	7百万円 (前年同期比△71.9%)
経常利益	△279百万円 (前年同期は129百万円)	3百万円 (前年同期比△82.4%)
親会社株主に帰属する四半期純利益又は四半期純利益	△68百万円 (前年同期は97百万円)	△73百万円 (前年同期は38百万円)
1株当たり四半期純利益	△0円96銭	△1円3銭

業績のポイント

- ①試験機事業は、受注高は前年同期を上回るが、期中の売上案件が少なく、売上高・営業利益ともに前年同期を下回る
- ②エンジニアリング事業は、ゆるみ止めナットと量販店向け商品の売上が伸び悩む
- ③海外事業は、欧米向けのオフィス家具部品が伸び悩む
- ④中国子会社の出資持分譲渡に関し特別利益を計上する一方、過年度決算訂正関連費用等を特別損失に計上

※△は損失を示しております。

当第2四半期連結累計期間は、試験機事業では、製品別・顧客別の営業体制を整備し受注確度の向上や販売活動の活性化に取り組みとともに、定期的な需要が見込まれる修理・メンテナンスの受注・売上の拡大に努めました。また、試験機の標準図面の整備や部材の見直し等により原価低減を図り、価格競争力の確保に努めました。その結果、受注面に関しては前年同期を上回るなど堅調に推移し、下半期および来期の売上見込みの確保に貢献しましたが、売上面に関しては当第2四半期連結累計期間における対象案件の不足等により、売上高および営業利益は前年同期を下回りました。

エンジニアリング事業では、高速道路関係や電力関係等のインフラ設備や公共事業関連施設を対象にゆるみ止めナットおよびゆるみ止めスプリングの販売活動を強化し、安定的な売上および受注の確保に努めました。また、訪日客をターゲットとした量販店向け商品（ステンレスボトルおよび軽量スーツケース）の販売拡大に努めるとともに、下半期以降の売上拡大の基盤を作るために当該商品のモデル変更を進めました。しかしながら、ゆるみ止めナットの販売の伸び悩みやインバウンド需要の低迷による量販店向け商品の売上減少等により、売上高および営業利益は前年同期を下回りました。

海外事業では、オフィス家具部品や家電部品、自動車関連部品等のプラスチック成型品の製造販売拡充を図りましたが、欧米向けのオフィス家具の需要変動による部品の受注・売上の伸び悩みや海外事業の中核会社である無錫三和塑料製品有限公司の元役職員の不正問題に伴う一時的な生産体制の混乱等により、売上高および営業利益は前年同期を下回りました。

また、上記のほか、当第2四半期連結累計期間において、本年3月に手続きを完了した中国子会社の瀋陽特可思木芸製品有限公司の出資持分譲渡に係る関係会社株式売却益を特別利益に計上するとともに、無錫三和塑料製品有限公司の元役職員の不正問題に対する調査費用および過年度決算訂正関連費用等を特別損失に計上いたしました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の連結業績は上記のとおりとなりました。

■ 業績の見通し (2017年10月13日の業績予想公表時点)

第112期 (2017年3月1日～2018年2月28日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	
連結業績	通期	5,100百万円	△20百万円	△40百万円	130百万円

※△は損失を示しております。

※当期より実質的な持株会社体制に移行したことから、個別業績予想の公表は行わないことといたしました。

事業内容

1923年創業の伝統と高い技術力を誇る試験機事業をはじめとして、画期的なアイデアで社会に安心と安全を提供するエンジニアリング事業など、技術と知識で豊かな社会の実現に貢献すべく様々な事業を展開しています。

試験機事業

試験機・計測機器の開発・設計・生産からメンテナンス・校正・受託試験サービスまで高度な技術力によりワンストップソリューションを提供しており、産業界や各種研究機関から広くご愛顧をいただいております。



試験機事業

海外事業

海外事業

中国子会社の樹脂成型技術を活かして、オフィス家具部品や自動車関連部品、家電関連部品等のプラスチック成型品の製造販売を行っています。



TKS
TOKYO KOKI

Technology and Knowledge Enrich Society

エンジニアリング事業

エンジニアリング事業

画期的なアイデア独自の技術で開発したゆるみ止めナットとナットの脱落を防止するゆるみ止めスプリングの製造販売（締結具事業）を中心に、一般消費者向け商品の卸販売等（民生事業）を行っています。



アジア地域における拠点

MONGOLIA

CHINA

NORTH KOREA

SOUTH KOREA

JAPAN

無錫三和塑料製品有限公司

東京衡機
試験機
豊橋工場

東京衡機
試験機
相模原工場

東京衡機
試験機
サービス

TKS
東京衡機

事業拠点



相模原事業所

本店

〒101-0025
東京都千代田区神田佐久間町一丁目9番地
第7東ビル



豊橋事業所

国内子会社

株式会社東京衡機試験機

- 本店・東京オフィス
東京都千代田区神田佐久間町一丁目9番地 第7東ビル
- 相模原事業所・相模原オフィス
神奈川県相模原市緑区三井315番地
- 豊橋事業所・豊橋オフィス
愛知県豊橋市北島町字北島202番地
- 大阪オフィス
大阪市淀川区宮原四丁目1番45号 新大阪八千代ビル2階

株式会社東京衡機試験機サービス

- 本社
神奈川県相模原市緑区三井315番地

株式会社東京衡機エンジニアリング

- 本社
東京都千代田区神田佐久間町一丁目9番地 第7東ビル
- 株式会社テークステレコム ※事業休止中

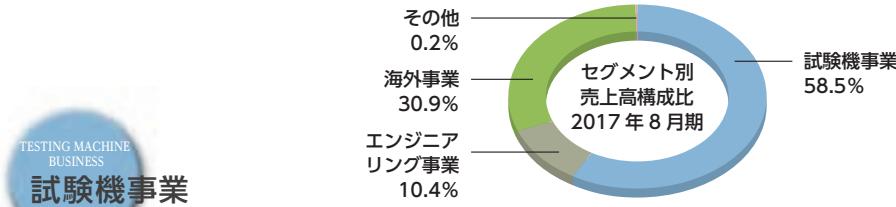
海外子会社

- 無錫三和塑料製品有限公司（中国江蘇省無錫市）
- 無錫特可思電器製造有限公司（中国江蘇省無錫市）

事業の概況

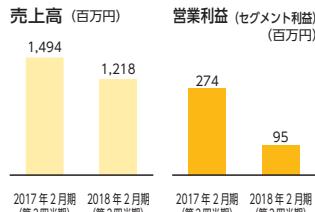
当社グループは、2017年度から「再生のステージから、新たな企業創生へのチャレンジへ！」をテーマに各事業において以下のビジョンを掲げ、新たな東京衡機グループの創生に取り組んでいます。

試験機事業	産業の基盤技術として、存在感のある試験機事業会社を目指す。
エンジニアリング事業	顧客満足と社会の発展に貢献する企業を目指す。
海外事業	生産能力拡張により上海江蘇地域で業界 No.1 を目指す。



Testing Machine Business

売上高 **1,218**百万円
営業利益 (セグメント利益) **95**百万円

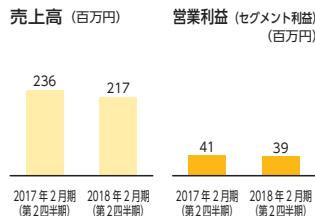


当上半期は、試験機の標準図面の整備や部材の見直し等を進め原価低減の基盤を作るとともに、定期的な需要が見込まれる修理・メンテナンスの受注・売上拡大に努めました。また、製品別・顧客別の営業体制の整備を行い、販売活動の活性化と受注確度の向上に取り組まれました。その結果、受注面に関しては前年同期を上回るなど堅調に推移しましたが、試験機はリードタイムが長いものが多く、当期間における売上案件の不足等により、売上高および営業利益は前年同期を下回りました。



エンジニアリング事業

売上高 **217**百万円
営業利益 (セグメント利益) **39**百万円



当上半期は、高速道路関係や電力関係等のインフラ設備や公共事業関連施設を中心にゆるみ止めナット・スプリングの販売に注力し、安定的な売上・受注の確保に努めました。また、訪日客をターゲットとした量販店向け商品（ステンレスボトル等）の拡販に努め、下半期以降の売上拡大の基盤を作るために商品のモデル変更にも取り組みました。しかしながら、ゆるみ止めナットの販売の伸び悩みやインバウンド需要の低迷による量販店向け商品の売上減少等により、売上高および営業利益は前年同期を下回りました。

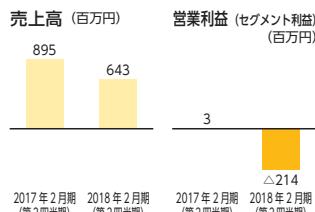


Engineering Business

海外事業

売上高 **643**百万円
営業利益 (セグメント利益) **△214**百万円

※売上高には、外部顧客への売上高を記載しております。
※△は損失を示しております。



当上半期は、オフィス家具部品や家電部品、自動車関連部品等のプラスチック成型品の販売拡大ならびに製造原価の低減および品質管理体制の向上に取り組まれましたが、欧米向けのオフィス家具の需要変動による部品の受注・売上の伸び悩みに加え、元役員による不正問題が発覚した中国子会社の無錫三和塑料製品有限公司の経営管理体制と生産体制の抜本的な立直しに時間と費用を要したことなどから、売上高および営業利益は前年同期を下回りました。



Overseas Business

第2四半期（累計）連結財務諸表（概要）（単位：百万円、単位未満切捨て）

四半期連結貸借対照表

科目	前第2四半期末 2016年8月31日現在	当第2四半期末 2017年8月31日現在
資産の部		
流動資産	2,796	2,746
現金及び預金	642	606
受取手形及び売掛金 1	1,368	1,285
たな卸資産	707	748
繰延税金資産	8	7
その他 2	126	206
貸倒引当金	△ 57	△ 108
固定資産	1,376	1,359
有形固定資産	1,120	1,150
無形固定資産	107	70
繰延税金資産	61	63
投資その他 3	437	281
貸倒引当金	△ 349	△ 206
資産合計	4,172	4,105
負債の部		
流動負債	1,757	2,014
固定負債	820	864
負債合計 4	2,577	2,879
純資産の部		
株主資本 5	1,074	858
その他の包括利益累計額 6	519	367
新株予約権	1	0
純資産合計	1,594	1,226
負債純資産合計	4,172	4,105

Point1 受取手形及び売掛金

売上高が前第2四半期に比べ大幅に減少していることを主因に、前第2四半期末に比べ82百万円減少しております。

Point2 その他

主に海外事業における前渡金の増加により、前第2四半期末に比べ80百万円増加しております。

Point3 投資その他

主に長期営業債権の消滅により前第2四半期末に比べ1億56百万円減少しております。なお、貸倒引当金も同債権の消滅を主因に1億43百万円減少しております。

Point4 負債合計

主に未払金ならびに前受金の増加により、前第2四半期末に比べ3億1百万円増加しております。

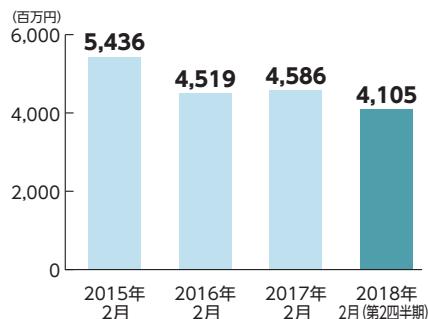
Point5 株主資本

前下半期ならびに当第2四半期純損失の計上等により前第2四半期末に比べ2億16百万円減少しております。

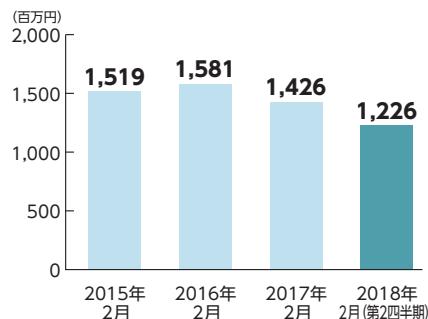
Point6 その他の包括利益累計額

人民元に係る為替換算調整勘定の減少等により前第2四半期末に比べ1億51百万円減少しております。

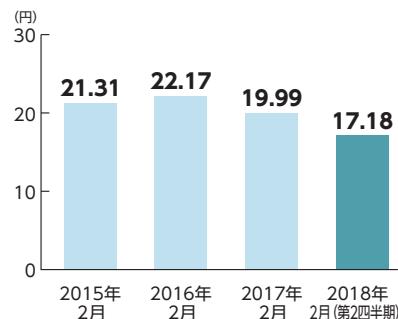
総資産



純資産



1株当たり純資産



※中国子会社における元役職員の不正行為の発覚により、2017年8月15日付で、平成29年2月期第2四半期以降の過年度決算を訂正しております。下記の前第2四半期末および前第2四半期（累計）の数値は、当該決算訂正後の数値であります。

四半期連結損益計算書

科目	前第2四半期（累計） 2016年3月1日～2016年8月31日	当第2四半期（累計） 2017年3月1日～2017年8月31日
売上高 7	2,631	2,084
売上原価	1,872	1,633
売上総利益 8	759	450
販売費及び一般管理費	610	704
営業利益	148	△ 254
営業外収益	3	2
営業外費用	22	27
経常利益	129	△ 279
特別利益 9	—	298
特別損失 10	—	88
税金等調整前四半期純利益	129	△ 69
法人税等	31	△ 0
四半期純利益	97	△ 68
親会社株主に帰属する四半期純利益	97	△ 68

※△は損失を示しております。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

科目	前第2四半期（累計） 2016年3月1日～2016年8月31日	当第2四半期（累計） 2017年3月1日～2017年8月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	322	△ 170
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 44	120
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 178	△ 27
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 9	0
現金及び現金同等物の増加額又は減少額（△）	90	△ 76
現金及び現金同等物の期首残高	508	672
現金及び現金同等物の四半期末残高	598	595

Point7 売上高

売上高は前第2四半期（累計）に比べ5億4770万円減少しております。試験機事業は2億750万円、エンジニアリング事業は190万円、海外事業は2億510万円とすべてのセグメントで減少となっております。なお、売上高減少の主要因は、試験機事業では前年同期に海外向けの大型案件があったこと、海外事業では欧米向けのオフィス家具部品の伸び悩み等であります。

Point8 売上総利益

売上総利益は、売上高の減少を主因に前第2四半期（累計）に比べ3億800万円減少しております。売上総利益率は海外事業における損失を主因に7.2ポイント悪化し21.6%となっております。

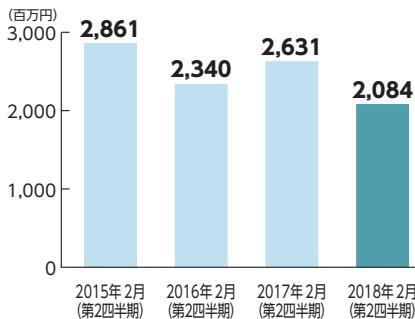
Point9 特別利益

当第2四半期（累計）は、中国子会社（瀋陽特可思木芸製品有限公司）の出資持分譲渡に伴う関係会社株式売却益2億920万円を特別利益に計上しております。

Point10 特別損失

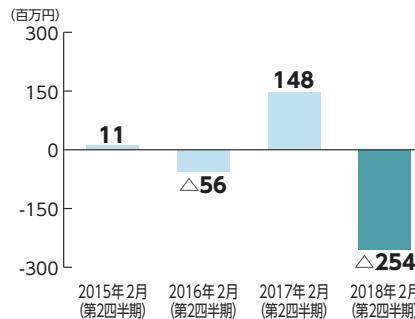
当第2四半期（累計）は、中国子会社（無錫三和塑料製品有限公司）の元役職員の不正問題に対する過年度決算訂正関連費用750万円等を特別損失に計上しております。

売上高

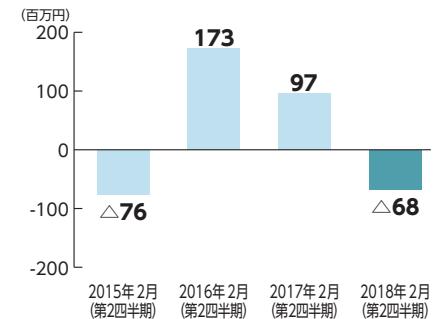


※△は損失を示しております。

営業利益



親会社株主に帰属する四半期純利益



トピックス

中国子会社における不正問題と過年度決算の訂正

当社は、中国子会社である無錫三和塑料製品有限公司（以下「無錫三和」といいます。）の元役員（当社元執行役員）および元幹部社員が不正行為を行っていた疑い（以下「本件疑義」といいます。）が発覚したことから、本件疑義に係る会計的な影響額を明確にして早期に平成30年2月期第1四半期の決算作業を進めるとともに、本件疑義の原因の究明、再発防止策の立案等を行うために、平成29年7月14日付で外部の有識者等を構成員に含む調査委員会を設置し、調査を進めました。

その結果、本件疑義と関連し、無錫三和において平成28年6月から平成29年3月にかけて計上された売上の一部について、製品の出荷の事実が認められず、少なくとも企業会計上は収益認識が認められない架空売上があったこと、同社の平成28年9月末、同年12月末および平成29年3月末の貸借対照表において仕掛品の帳簿残高が過大計上されていたこと、平成28年12月末時点において、本件疑義との関連が疑われないものも含め、実質的に回収不能または回収困難と認めざるを得ない債権があったこと等が判明したことから、当社は、平成29年8月15日付で、平成29年2月期第2四半期以降に提出・公表した有価証券報告書、四半期報告書、決算短信および四半期決算短信の一部を訂正し、公表いたしました。

当該訂正による過年度業績への影響につきましては以下のとおりであります。

(単位：百万円)

期 間	項 目	連結業績		
		訂正前 (A)	訂正後 (B)	影響額 (B-A)
第111期 平成29年2月期 第2四半期累計期間 (2016年3月1日～ 2016年8月31日)	売上高	2,657	2,631	▲ 26
	営業利益	174	148	▲ 26
	経常利益	155	129	▲ 26
	四半期純利益	123	97	▲ 26
	総資産	4,172	4,172	—
	純資産	1,618	1,594	▲ 24
第111期 平成29年2月期 通期 (2016年3月1日～ 2017年2月28日)	売上高	5,122	4,988	▲ 134
	営業利益	240	13	▲ 227
	経常利益	220	5	▲ 215
	当期純利益	165	△ 49	▲ 214
	総資産	4,821	4,586	▲ 235
	純資産	1,646	1,426	▲ 220

本件につきましては、すでに日本から無錫三和への経営幹部の派遣やグループマネジメント体制の向上、相互牽制機能の強化に向けた組織・人事再編、コンプライアンスを徹底するための全面的なルールの見直し・整備、不正行為の防止ならびに製品不良および納期遅延の撲滅に向けた各業務工程における管理の徹底等に取り組んでおりますが、今後、調査委員会の提言を受け再発防止と子会社の改革に万全を期す所存であります。

株主の皆様をはじめ関係各位に多大なるご心配とご迷惑をおかけいたしておりますことを深くお詫び申し上げます。

「TEST2017－第14回総合試験機器展」 出展結果のご報告

当社グループの(株)東京衡機試験機は、2017年9月13日（水）から15日（金）までの3日間、東京ビッグサイトにて開催された日本試験機工業会主催の「TEST2017－第14回総合試験機器展」に平面曲げ疲労試験機PBF、小型卓上試験機リトルセンスターおよび電気リニア疲労試験機ELAの3機種を出展し、多数の方々へ展示ブースをご訪問いただきました。

今回の展示会へのご来場者およびその属性は以下のとおりです。今回は、前回よりも多くのお客様に関心を持っていただくことができましたが、なかでも、市販のオーブントースターの扉の開閉に電気リニア疲労試験機ELAを使用したデモンストレーションは好評で、ご覧になられたお客様から同試験機についての照会・質問等を多くいただきました。展示会終了後も製品についてのご説明やお打合せを行っております。

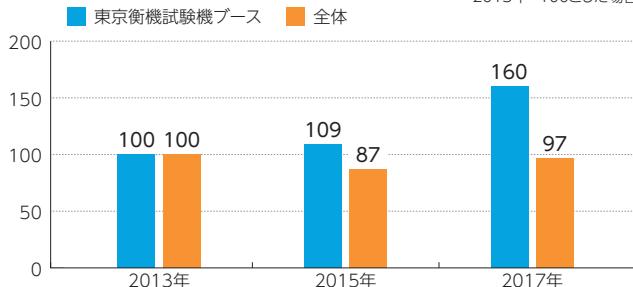
展示会・ブース来場者数

(人)

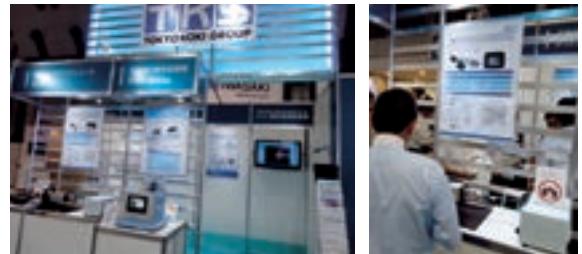
	2013年	2015年	2017年
東京衡機試験機ブース	205	224	329
全 体	13,634	11,857	13,218

TEST展 来場者数の推移

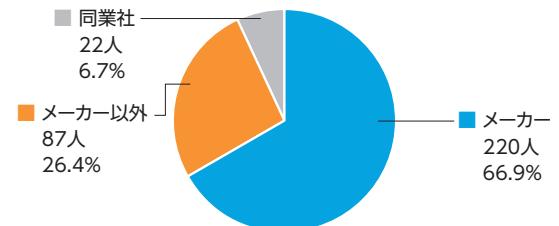
2013年=100とした場合



TEST 2017 JAPAN TESTING TECHNOLOGY SHOW 2017 第14回総合試験機器展



2017年の東京衡機試験機ブース 来場者数の属性別内訳



特集

「T-スプリング」のご紹介



1. 「T-スプリング」とは

T-スプリングとは、ボルト・ナットを締付けた後、ボルトの余長部に取り付けることでナットのゆるみを防止するゆるみ止め金具（ゆるみ止めスプリングの一種）です（写真参照）。2015年に製品の製造販売を開始してから、主に建築業界でご採用いただいています。特長として、ボルト・ナットの施工後に取り



T-スプリングとボルト・ナット



T-スプリングの設置例

付けることが可能なことから、点検の際にボルトのゆるみ止めが必要と思われる箇所へ取り付けることも可能です。材質はステンレス製（SUS304）ですが、溶融亜鉛めっき製のボルトにもご使用いただけます。

2. なぜ「T-スプリング」はゆるまないのか

T-スプリングは、六角と丸のスプリングで構成されており、丸の部分がボルトに取り付けた際にボルトの中心方向と縦方向に強固に緊縮し、T-スプリング自体が振動外力に対して動かなくなります。そのため、T-スプリングを取り付けたナットがゆるみそうになった場合に、ボルトのねじ山をT-スプリングが埋めていることにより、ナットのゆるみを防止する効果があります。

T-スプリングの緊縮する力



◀ 力のかかる方向を示す

株式情報 (2017年8月31日現在)

● 株式の概況

発行可能株式総数	260,000,000株
発行済株式の総数*	71,337,916株
株主数	3,516名

※上記の発行済株式の総数には、自己株式26,846株を含みます。

● 大株主 (上位10名)

株主名	持株数	持株比率
Dream Bridge株式会社	21,401千株	30.01%
株式会社アジアゲートホールディングス	5,978千株	8.38%
佐藤 充弘	1,793千株	2.51%
何 積橋	1,500千株	2.10%
岡崎 由雄	1,050千株	1.47%
早坂 天	1,009千株	1.41%
石井 照義	614千株	0.86%
宝天大同	470千株	0.65%
池上 道弘	466千株	0.65%
株式会社SBI証券	395千株	0.55%

※持株比率の算定においては、発行済株式より自己株式 (26,846株) を控除しております。

● 株式の分布状況



● 事業法人等	28,177千株	39.50%
● 個人・その他	40,812千株	57.21%
● 金融機関	574千株	0.80%
● 証券会社	1,324千株	1.86%
● 外国法人等	423千株	0.59%
● 自己名義株式	26千株	0.04%
合計	71,337千株	100%



● 1単元未満	195名	5.55%
● 1単元以上	1,945名	55.32%
● 5単元以上	488名	13.88%
● 10単元以上	710名	20.19%
● 50単元以上	100名	2.84%
● 100単元以上	78名	2.22%
合計	3,516名	100%

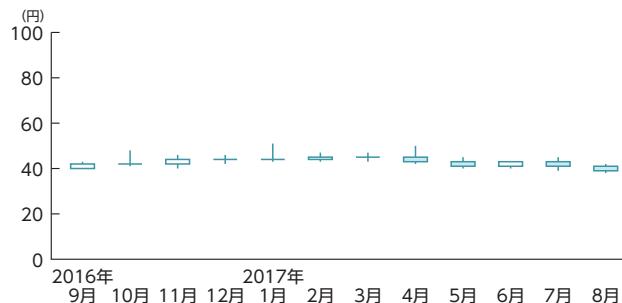
会社概要 (2017年8月31日現在)

商号	株式会社東京衡機
本店所在地	東京都千代田区神田佐久間町一丁目9番地
創立	1923年(大正12年)3月20日
資本金	27億1,355万2,013円
従業員数	13名(連結368名)
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・東京衡機グループの経営戦略の立案・遂行 ・グループ子会社の統括管理およびサポート 【グループの事業内容】 <ul style="list-style-type: none"> ・試験・計測機器および関連機器の製造・販売ならびに修理・メンテナンス、校正、受託試験その他の付帯サービス ・ゆるみ止めナット、ゆるみ止めスプリング、特殊ばね、ボルトその他の締結部材の製造・販売、各種サービス ・住宅関連設備その他一般消費者向け商品の販売、各種サービス

役員等 (2017年11月1日現在)

代表取締役会長兼社長 (兼 社長執行役員 グループ経営会議議長)	石川 隆一
取締役 (兼 常務執行役員 エンジニアリング事業担当)	平田 真一郎
取締役 (兼 常務執行役員 グループ経営企画担当兼海外事業担当)	神崎 吉平
取締役 (非常勤)	竹中 洋
取締役 (社外取締役)	花島 浩
取締役 (社外取締役)	神邊 英明
取締役 (社外取締役)	石渡 隆生
常勤監査役	遠藤 栄一
監査役 (社外監査役)	藤田 泰三
監査役 (社外監査役)	水川 聡
監査役 (社外監査役)	玉虫 俊夫
会計監査人	RSM 清和監査法人

● 株価の推移



株主メモ

事業年度	3月1日から翌年2月末日まで
期末配当金受領株主 確定日	2月末日
定時株主総会	毎年5月開催
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社
同上連絡先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 ☎ 0120-782-031 (フリーダイヤル)
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同上連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒183-0044 東京都府中市日鋼町1番1号 ☎ 0120-232-711 (フリーダイヤル) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場金融商品取引所	東京証券取引所市場第二部
公告の方法	電子公告 (掲載URL http://www.tksnet.co.jp) (ただし、電子公告によることができない事故その他の止むを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、単元未満株式買取・買増請求その他の各種お手続きにつきましては、原則として、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
- 特別口座に登録された株式に関するお手続きにつきましては、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行株式会社)にお問い合わせください。同行全国各支店でもお取次ぎいたします。

東京衡機ホームページ
<http://www.tksnet.co.jp/>

IR情報はここからご覧いただけます。



ロゴマークについて

“技術力” “獨創性” “人” “伝統” 全てをリンクさせ、一丸となって新しい時代へ向かう東京衡機の姿を表現するため、「青」「赤」「緑」「紫」を「光のイメージ」に展開しています。

青：東京衡機の技術力

真っ青な海や空を眺めていると不思議と心が安らぎ、ポジティブな気持ちになります。そのことから「青」は冷静、自立、希望を象徴し、また知性、誠実のイメージをもつ色といわれています。次代のシーズを冷静に判断し、お客様のご要望に的確に応えるため、あらゆる知性を集約した、東京衡機の“技術力”を「青」で表現しています。

赤：東京衡機の獨創性

万物に恵みを与えてくれる太陽の色「赤」は、外へと向かうパワーを感じさせます。

情熱、エネルギー、ダイナミック、活動的なイメージがあり、幸運を招く色としても知られています。新しい次代へ挑むエネルギーとなる、東京衡機の“獨創性”を「赤」で表現しています。

緑：東京衡機の人

自然の美しさや木々の芽吹きを連想させる「緑」は、すがすがしさ、新鮮さ、新しい可能性、生命力を象徴する色です。いつまでも新鮮で、新しい可能性に満ち、時代を乗り越える生命力を備えた東京衡機の財産“人”を「緑」で表現しています。

紫：東京衡機の伝統

染料の入手が困難なこと、染め出す技術が高度なことより、古来から「紫」は高貴な色として崇められ、また伝統、古典のイメージをもつ色です。1923年創業という長い歴史を誇る、東京衡機の“伝統”を「紫」で表現しています。

株式会社 **東京衡機**
TOKYO KOKI CO. LTD.

〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町一丁目9番地
TEL 03-5207-6760 FAX 03-5298-1802



環境に配慮した植物油インキを使用しております